

208
82

指面草
全

藏
書
圖
庫



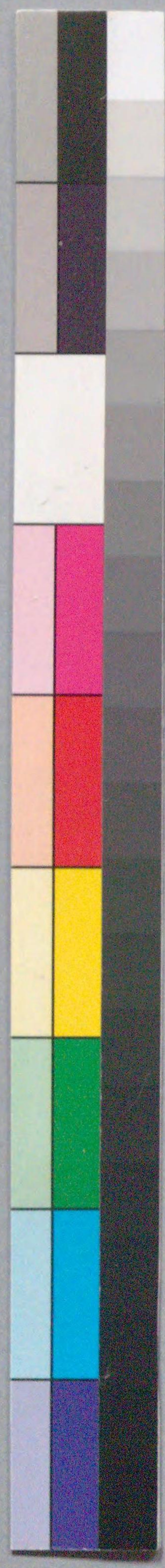
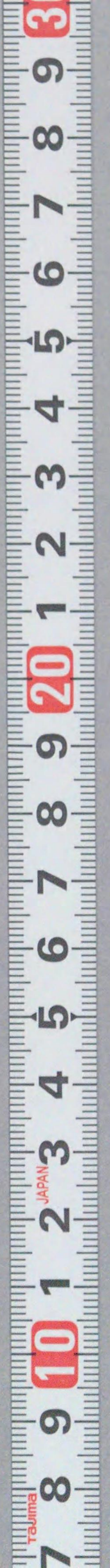
国立国会図書館 指面草 208-82

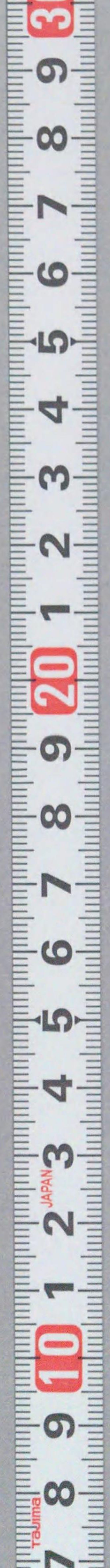
ガラス使用

東傳著
指面草 全

208
82

叙
 地チの積ヨロヒ寝ネ一ヒト夜ヤ食シ孤コのカありアリ者モノ
 物モノとト産ウミをミ生ナるル者モノ一ヒト方カタ物モノ種クダのカありアリ者モノ
 放シ下タとトはハりリふフおオのノさサけケ後ノチ往ムカシ古コ誰タレるル
 其ソノのノとト植ウヘくク吉ヨシ野ノとト山ヤマ一ヒト傾カエ
 城シヤクのノ積ツキのノ種タネもモ其ソノ發ハツ所トコロハハありアリ予ヨ
 夢ユメ一ヒト富フ士ジ宝ホウ永エイとト産ウミをミ生ナるル者モノ一ヒト
 瓜ウリのノ蔓ツル亦ナラニ花ハナ子コがガけケるル或ナラバ存タカるル者モノ一ヒト産ウミをミ生ナるル者モノ一ヒト





頓トミの夢のあゝと種タネと一切衆生の流タテ
 と蔭マク素モトと木竹の誤アヤマリ阿れを其罪と
 阿カラスげく鳥カラスはららるるやれ云爾

天明六の抄
 作者 京傳



足立郡 附 奉天宮の報煙爰八目方の重オモシ才サカ粉コ鴉カラス羅ラ童子コ
 三河島御不動記 為結縁之不動オモシ略縁記
 中平二冊仕立近日著之中心
 并り縁子の縁と後河乃富士は廣代双る制多如童子

指面草目録

万茂

① 瓜うりの蔓つる子こ茄か子の孫ちん物ぶつ子こ胤いんのるる遠

科しやう戸この風かぜたたままされる神かみたたつついいままはは来ら来ら修しゆ
 好こう警けい力りきのの比ひ麻ま相さう一いっ枚まいのの差さのの世よの中なか

② 親おや子の縁えん井い戸こをを深ふかいい魚いさな屋やのの糸いと碗わん
 高たか人のの齒は子こ衣い着ぎせせぬぬ親おや父ちちのの美い見み
 小こ産うぶをを及およびび先ま陣ちんとと作つくららむむ此このの軍ぐん法ぽう

廣ひろくく狭せまいいをを忍しのびび屋や七しち言ごん清せいかかのの好こう
 糸いとへのへの代しろ衣え子こ雅みやびとと織オリ物もの八はち名な物もの裁さい

雲のよと下りハ草紙收針屋の鉄立

尺八の赤口は汲く知る公衆の糸がれ
經の小袖の釣女一本をひの妻年取が糸ト

小

此身の人を九と云ふとさかとの銀袋

大門の七軒は誰か今日根引のけむ 嬰

物思ふ秋の夜の曇ハ蠟燭の煙を構
蛇の囀り敷糸と際り釣下踏

百姓家のん中ハ天離ひかさぬと

初雪の報世界ハ五町ハ降惣花

子由の闇と遠の園一寸先ハ日のぬ方便

云鬼のハ誓ハハケ月のハ利益

親事のハ毎子ハ秋葉歳うらくとけ

大

此の蔓ハ茄子の孫お子増のり遠

妙法蓮花經普門品第二十五牒目示時無盡横町と云刺字

のせげハ葉揚の積さ一棧の通る新乃ハ思指子の釣奇作

血の乃の薬と云全看板とかけ布屋敷ハ万字と漆ハ性地獄

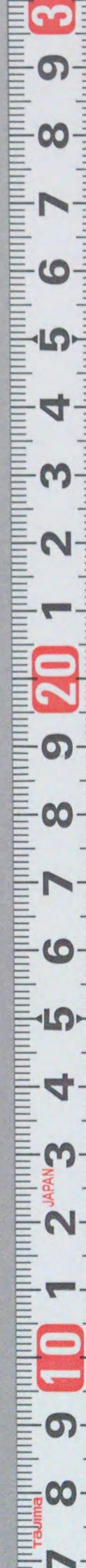
あんと思の外極樂の中甲條流の女醫云か思ハたふとつて

新薬小ハ初産産後と云る子安觀音の出

張るハ觀音催生の薬と酒合一ハ居りハ初養妻の業

門して天の庭戸と押岡と云ふハ夫ハ思けまくもかハあさ

天照皇入神あり觀音を白ひひ是ハ云因縁で



神の影向は是と合掌してたいてはたゞ太神宗
 も三拜志多ひ柏を二つうつて文のよろき踏ひ十に於て踏ひ祝行
 して宜今日おまじのつたは外のすふてもなく去れ神在月日の
 内崎の文社八雲を立出雲八雲を絶約の久き清あぬ八百を著
 の神々平假名で起請ふとる神達をのころに宗舎して中
 合せしは近守氏子どもこの外艶氣ふる神もゆるさぬ
 縁を踏ひ末ととげざる其時縁と踏ひの神えがうめし
 さい、ナア、ふぞと其うふま踏ひる踏切の行禱のと又しは
 神とろし凡夫盡小神もその政るふるごとくぞ、せし
 付ては世古より中子と云々神の支配とも佛の支配ともさだ
 まり、よくハ神とも又江の流る者か二て、報とくらはる
 つことのゆくい、さまがゆく、神慮安か、まをり
 以後は彼中子のも、ハ佛の支配、定とく世るハ、孕とちり
 り、佛系れば世、門談い、度、輪の、さ、さ、ら、る、内、耳、と
 振立て、こ、こ、こ、め、せ、と、中、の、ハ、さ、る、程、内、の、神、託、お、せ
 の、通、り、仲、間、中、達、し、以後ハ、觀、る、に、ま、る、子、胤、と、授、け
 登、し、か、あ、る、を、疑、ふ、ふ、か、れ、と、早、合、點、を、吞、込、は、そ、れ、さ、へ
 け、や、う、ち、う、さ、れ、を、外、よ、中、子、の、由、り、し、し、もの、と、踏、ハ

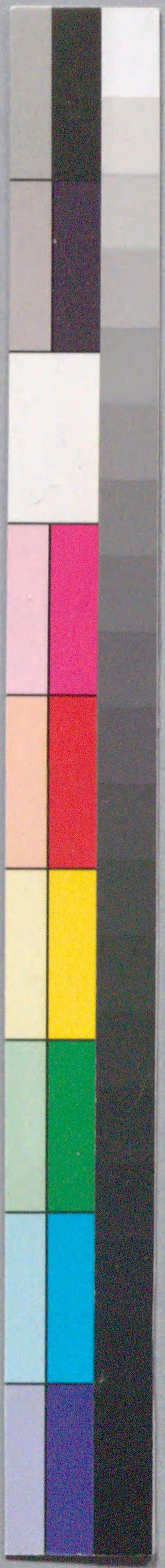


一、終に備置物と奉羅あて流まで八丈結の八尺おそく者ハ
 全く子安親も子胤と引違て授けし一也一室子
 全吹町子全多を海ありとて有徳成兩賢屋有る一子と海三郎
 とて、の子胤の武士と引違て幼より武藝と好五歳の戯小も
 魁車と引て仲造と追んとはる七歳の遊ひ小竹るまゝ
 かつく佐々木子騎かんと思ふ十六歳まゝ元後してとて
 の京橋大野翁人か門あり、劍術射術餘長口何そこの場
 であるとせめ、室の隅で、鉄砲の秘古平生も、武士の義子と
 かめ、洗湯へ引小一獲とはかさど、今へ高ととさよして是と
 てもむす小のミをりり、親族をりあり、海三郎と近づけ
 て中八生兵法大村の元と、共方が知り取小八成るまゝ
 益の多と智と今日後ハ急度止て高賣とんを撮まい
 せと、さびしく是見して奥へ入、海三郎と見送を代
 呼て今の己が飛撮と見たる日ごろ、子の短い親父ふれ、能
 義のとして煙管でも振と、まゝいものなつて、所と一やんと才
 とひ移れば、け小ハ三分の強とつて、親父方小ハ、分の弱と有
 是が下邳の肥橋で、公が子房とつて、一虎の巻の中、一歩
 退才と云秘りし、穴と是程子んを、劍術者とハ





いふれぬと行多と流して是見えたる親の心あつぬ火乃
 つきたけの的かりと矢猛ん無分別の旗既と見えり
 或時ふと思ひる我衣藝たつぬ一海とれと未水と知ぬ
 を今こそ水練とんかえと儂ふみと借大川へのり山
 水了秘密吉と見物して居たりる折言向とる猪の牙の
 みのり子くいとそせある西整仲間の息子表徳と金公
 と云男是ちかの子胤のる遠しやかたい親父は似もつと親
 小似ぬ子八鬼のあまよ余の洗濯子才がいつて頃日ハ吉
 原専富士屋の東野と云全盛の女即おれど才代ハ銀
 煙爇の目方ととも小へるすハ一とぞんハ本先あつるおれど
 登遊ひが仕るつともと連がふほしく思ふ折言海三郎
 舟と見付あまかてくあゝ業徳と知く居るすおれど一ハ
 一真あんとおれど己が宗方へ舟川へ一而小遊と連立
 中の町松田屋劫二が店へ入りつハ魚て釣米と見え早
 中子東野ハ茶屋の床机小腰をほんお待たせ人ハあとい
 一福禱の縁子ほろ家梅木のほろ梓結より箱結
 多括結より思が似合子崎田とハちとあつふてさあ晒着



うち。海三郎が照く居る子ん付さへんは先度所あり
 近付すと東野と合はれどこの禱の禱とふとして見
 せらる小ハ初ては内意よの某ハ金多海と申者以後ハ
 此見知り下よ中町の店先とハ靴紐の時代とも
 ぬ換様子先も顔はちよはめく居る新造禰が一度小
 吹せせむ茶屋の女房が嘆むひ小くろめく火鉢と
 と盃茶と生中よとせも素とて道か三海か
 傾玉の地子遊ぶ士のは金さつろふと好と見え
 一申の付命を思は深へ一とと濫茶とまた
 豆店引く神活のとつと有時分大門とせ
 次切落を能る空一成人家城は切くよ妻とて獨點
 序がう観るへ糸指とて暫も茶店子体日塔の
 小着付て、郷の表門は映くと愈赤くせつさるの因
 地子脊高崎の人物以画に似ては鉛杏の系を揚枝
 屋おいくが鞆鞆子挿挿とつり一鶏音深さ樓の洞小
 眠て。旭るひませんめくくが杖子敲るくと社堂の神樂ハ
 てんてははくはつらと舞も樂をよい所也と見え源
 獨樂三返返るく烟草ハ一化助が茶とうい天に至て



筑^{つく}離^り己^のの^まは^りて^し鯉^{こい}が^毎舌^{した}地^ぢ子^こ踵^{かかと}之^の市^{いち}が^氣神^{かみ}る^は
 堂^{どう}始^{はじめ}迄^{まで}と^引く^ゆり^大天^{てん}窓^{まど}の^尼二十^{にじゅう}軒^{けん}の^仕舞^{まい}と^子傳^{でん}
 丁^{ちやう}子^こ燦^{さん}く^の高^{たか}人^{ひと}傘^{かさ}と^帖を^は徒^た足^{あし}糸^{いと}り^足成^{なり}酒^{さけ}の^日
 等^らと^紐打^{うち}止^とめ^下向^{むか}群^{ぐん}集^{じふ}乃^は其^{その}中^{ちゆう}よ^先と^掛く^ぬけ^せ
 う^ふと^大主^{しゆ}の^真と^見へ^打物^{うちもの}長^{なが}柄^{へい}茶^{ちや}每^{まい}當^あ猩^{しやう}緋^ひの^後
 ハ^夕紅^{こう}の^色と^増一^{いつ}所^{ところ}散^{さん}の^糸あ^の中^{ちゆう}ハ^誰ハ^かも^小
 玉^{たま}惑^{まど}せる^綿帽^{ぼう}子^こ群^{ぐん}起^{おこ}踏^ふの^如く^立並^{なら}む^真女^め中^{ちゆう}
 糸^{いと}あ^とり^させ^びご^まば^さ是^こも^お慰^{なぐさ}み^表門^{かど}ま^くも
 び^ろを^遊せ^と履^は成^{なり}と^せど^中と^り履^はけ^ぬの^ふハ^十と
 か^まと^くハ^七つ^のつ^も夕^{ゆふ}へ^へハ^一は^君村^{むら}色^{いろ}時^{とき}一^{いつ}月^{げつ}眉^{まゆ}か
 く^や娘^{むすめ}ハ^鶯黄^{わう}と^偶衣^い通^と娘^{むすめ}ハ^逃ぬ^中頼^{たの}政^{まさ}と^葛藤^{ふたば}美^み仲^{なかつ}の
 巴^よ山^{やま}吹^ふ義^ぎ経^{けい}乃^の静^{しやう}義^ぎ貞^{てい}の^白齒^は四^し竹^{たけ}とい^ふや^も是^こ程^{ほど}ハ^有る^あ
 蜻^{せみ}首^{くび}蜂^{はち}腰^{こし}出^での^団月^{げつ}花^{はな}以^も着^きる^花容^{よう}鏡^{かがみ}自^{みづか}比^ひ女^めとい^ふと^裳衣^{もろ}自^{みづか}
 と^目入^{めい}と^すも^あの^さ葉^は質^{しつ}の^後三^{さん}即^{すなは}ち^はし^く思^{おも}ひ^らハ^適生^{せい}難^{がた}に
 人^{ひと}界^{がい}へ^生れ^おか^る素^す町^{ちやう}人^{ひと}の^情と^生れ^一生^{せい}と^朽果^{くわ}あ^のの^口惜^{なげ}く^娘君^{きみ}
 の^容兒^こ子^こ交^まぬ^好もの^んと^泄向^{むか}秋^{あき}を^とい^ふぞ^一著^{しやく}取^と度^たく^思
 あ^とと^び持^もち^める^葉碗^{わん}成^{なり}履^はぞ^れ糸^{いと}く^ん付^つ吞^のさ^のの^煙管^{かん}
 とい^ふと^せあ^のと^目見^め送^{おく}く^ゆい^ぬ



系はきくつちるふれど江戸鹿若の系ゆい種しゅ形かたち居い小
 子こと逆さかまるけ危あや込こと見みへ一いかむめ居い居い機き盤ばんとよ
 港みなと板いたと取とく突つゆ一い舟ふねはあぐ槽せう舟ふねの中なかとみれど
 五分ごぶん金かねの字あざ席せきは細この字あざと戸とはは切き丸まるの字あざと字あ
 ま口くちと定さだめ船ふねと水みづをよ取とく産う火か煙えんの簀すい舟ふねの系あをよ
 愈よく煙えんの形かたちと後あと一い戸とと洞ほら床とと見みく古ふるひある掛か軸じくの
 かましく有あと讀よむれしを御ご糸いと印いん丸まるの系あ居い竹たけ籠かごの極ごく先ま
 下した七しち兵へい清せい艦かんをよゆ今日けふの系あ居い灰はい炮ぱう礮たうと用もちこせぬを
 船ふね中の夏なつ故こ約やく舟ふねの廁ふしとる遠とほ不ふ故こと細こさ所ところへんと付つ
 炭すすもほむ仕し也や昔むかし西にし舟ふねの系あ居い馬うま合あ小こんと付つ湯ゆの
 必かならずうち付つ舟ふねをよ川かわ魚いさな一式いっしきの舍せ席せき中なかと格せき終しまる比ひ約やく形かたちへ
 舟ふねと着は着は穴あな中なか立たと定さだめ舟ふね大おほ川かわ橋はしの下したへ着はく七しちき清せい
 葉は帚ほうとく小こ縁えん子こ水みづと打うち音ね羽う原はらと巻まく格せき杭かと床と柱ちゆう
 見みえく踏ふき首くびと云い銘めいの花はな器き小こと葉はと入い濃のう茶ちやの個こあ小
 ち口くち取とり一い重じゆう燒やう水みづ注つ子こ川かわを即すなは茶ちやへ入い記き書しよと名な号ごう
 指さし渡わた一い寸すんは巧くわう宮みや戸と川かわと云い細この袋ふくろ入い茶ちや初はつ貝かい先せんと赤あかく
 都みやこをよと銘めいはる濃のう茶ちや落らく茶ちやの調てうあまを好このみの流ながい
 ちへく曲まがく舟ふねの竹たけ一い筋しんは水みづ口くちの楮ちゆう牙がはは立たり



漕ぐ竹乳屋の舟横は渡り水の画は高きもいふらん
 堤の上のき 騎 唐画小虫 西湖の如く岸に掛
 樓船の額に王義之が筆意とて山を鯉の養吟くハ雲
 者のちんえんの中長履をけし落の船と見えハ羽衣言が
 後の生奥と思ふ中田家の女井へ紙と巻ひく舟へ運む
 土子のを合ハ舳と手傳く錢と世貝ふ釣瓶く本と
 かしく言遊舟ハ何童へ与ハ胡乳と釣かけ西聖靈の
 中蓋物の下なる棧ぐし 障子の骨と浸せいざま
 後作ハ竹乳山の峯を小くし砂頭子印と刻む匠の遊ハ
 所水底よとを写し一のり時餘ハそぬ隅田川全公ハ
 舟と堀へといそがせる全公七を清がまか小鷲子けふの
 紙向の面白さふ巻舌の舌と又取くまると士 舳改磨の
 今ハ野 雲のらうらう大膽ふと思ひハ古むれをてぬく
 今ハ折角の法ハ小廉未ぬる糸差と患あるまか法
 覧小ハさそ法退窟子思石ましやうといへいふく
 見んをそと云紙向の響へ五風流別くい糸碗見所のつ
 乃貝土色と云葉のから塩梅ひ袖女よあぶらふ小



魚屋あつんと思へとも不艦ぶがう魚屋あれを高金小
 くあつとくもよ入魚乃奥あつと孫しと器物と秤量
 此れをぶが程法同利の通を奥屋をこぞれを故つら
 け茶碗と子代と名号すしと便あつとがしとおわ
 法をすまはけつあつ故つ茶碗志きあまほくあせ
 ぶ代金玉両とかせむねく船に風情をく求るす又の
 物了難くい川せけ舟者の株を愛く申すもと思
 込しと一人の娘子んもと来の妻あせしと竊よ相借屋
 の女兒と称し吉原へ百両と身と愛すしととと
 茶屋し故あつこれ不便をすしと思へも由を
 器物小末練の執んとをしと我子あつとけ川か
 早く先方へ金を受戻んしととと娘す
 承知致しし其金く切を叶へくとととと
 顔は方右の金子ふく求すしと茶碗故則子代と
 号朝夕娘と取しと就を致すしととととと
 私の娘は方右の目とととととと富士屋の東野と
 とととととととととととととととととととととと
 聞はとととととととととととととととととととととと



文笥と廣蓋ひろがせは次ついでに小袖こそでのせしむるに今いま此こゝ家うち老らう
まゆとひそめ
 由尾ゆゑ秘ひ花はな女によ様さまとて此こゝ供たてまつ所ところ見み遊あそ
ひん
 之こゝ情なさけの不ふ審しん顔かほとて文ぶん笥せきと開ひら
ひら
 東とう野のへの緒いととの文ぶん面めん外がわ子こ袖そでももききればればふふくく席せき付づ
い
 多おほむ相あひもも美み系けい小こ袖そでと引ひ返かへ見みのの人ひと全ぜん系けいをを輕かろとといい
い
 纏ちぢひひにに多おほむむ後あとととななししきき小こ何なにややんんととああららるるものものと
い
 縫ぬい込こにに未み審しんと引ひ解とききいいづづ久くハハ一一通との書しよ之これ本ほんトト
い
 ひひとと見みええははたたののここ

造化即席献立

祝蓋

一角仙人いっかくせんじんと生なまるる麻あしの切きり
 びんびんの子このの宿しゆくのの
 弘ひろ法はふの石いし草くさ
 宿しゆくががすすららあありりまま
 血ちののつつまま子このの切きりりに
 細こ川がわとといいふふのの一いっ舟ふね
 ががににつつけけまま

吸物

けしけしのの女によががいいままのの
 味あじののくくをを
 味あじののくくをを
 吸あひひののかかのの相あひ子こ

猪口

久くとといいふふ
 久くとといいふふ

茶碗

孫まご権けんのの後あと余あま太た
 孫まごののかかいいののちちのの
 月つきとといいふふののんんとといいふふ

大平

本ほんとといいふふののたたけけののここ
 本ほんとといいふふののたたけけののここ

井

時ときとといいふふ
 時ときとといいふふ

酒一瓢子

おおたたままははぬぬ子こハハ
 おおたたままははぬぬ子こハハ

其外

此こゝににいいふふ

中ちゆう心しんをを信しんずずとと信しん任にんららるるはは是こゝハハ文ぶん選せんとといいふふ

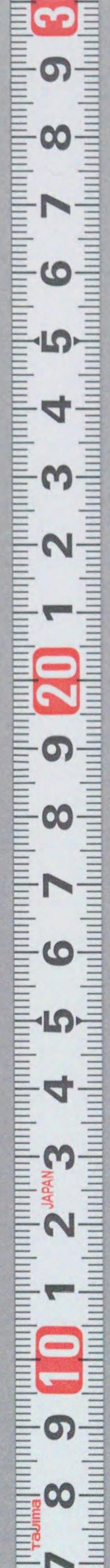




ゆゑに贈物ありてこゝにありて種の子遠くはるものはかき集
める歎きつれしもの遊ひの好と諫のいふなりし
迷に誤りていふは是程面白遊ひごとし止らぬ
もの由に坐すく坐すく味づくは依のいふなりしもの
昔二の鯉の小袖と一はづりサ度よ速く釣とあふの狂を長二
ぬくぞとあふ三度と鯉の釣竿を肩に担ぐことづき
を指すし者はいづれに任まむとまのこ即ちいふ色男をくひ
釣ふくはさぬ釣かかろほくつうか釣ふくと夕鳥啞言
こゝに味づく

◎小蛇のといふたあまの重なる上の銀煙管

蛇ハ寸小し其氣と得た子育るよふくと蛇
西の産ましく玉万石を釣くふ葦河伊某どの婦子
河川舟を乗る子育るのまふり子ありし
町人の子とて遠くふや民家のかこつとさとを解か
せのひる小碁せし猪の牙子茶をのりてあまの身の
指すまゆとゆふひ射術と藝とを惚とすかこつと
しあひ茶術とてあまを取らするものごとし
あまひりてあまづやへばかき道ひるあま相撲と好む



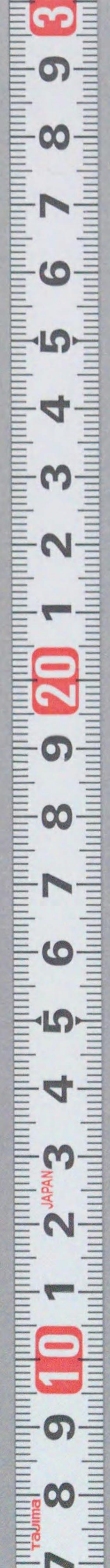
多しは抱お獲の志鶴首方は例より羽との一は葉よ
 の醫園志燕の柳菴は長麿の塵子集と吟々く世のりか
 あの津夜もゆの夜も一寸先ハ鳥羽玉の間ハ危し白和下
 踏堤八町多るばう草よあやぬ途を向繩跡のくもるハ
 山崎と二清ハあはれ祢と
 東野くけはまお徳子格を角野のうき合海くする附
 三不雨と後く多ひく云夏家老る由尾秘菴女が耳へ
 へけ程の放埒とい孫子言號の妙思と近き法社度能
 寅中傾城遊女と受やういへ某大屋へ中祢あり
 待中せど止まらせしむ祢は涙かく大屋へ中と
 清居より押迫めりる不痛首方ハ燕柳菴東野より
 くの多しは葉よいふむと祢へも家老秘菴女お次子
 堅く園もえくもるのそく書も申るていので行きて悔いのハ
 葉もめいりくもい今まらぐ怪くゆき紫めもむし一才の急
 小川ぬめれくもむむ住川一清居るも鬼界が境あむむま
 くの多しは葉よいふむと祢へも家老秘菴女お次子
 東野が恨あしんと獨思とのべ金の烟也吞ぐも煙爇と
 門がしとめ片使寤ころよあうくも母君の葉一柳



かくるに余り海くむるをしくおましく聞せむし
 或日鷹子貝くも取くも多く英くは竹女貝桶と
 打せくつらふり進くもねむ折角の志外れに
 竹女とおもひ撫と安きしく貝をくもりし不思後
 や貝桶のくもりし烟中の煙のくもりし立のけり
 しく一片の雲くもりし未富くもりし樓宮のくもりし
 と子しと野の山門のくもりし五くもりしあふ満くもりし
 いせくもりし唐門のくもりし入くもりしくもりし金銀の
 砂子を時くもりし時くもりし海棠の盛くもりし一助の街直くもりし
 長女のくもりしくもりし砂子油子のくもりし建並くもりし磁の
 簾とおもりしたくもりし先のくもりしおまきくもりしあくもりし
 透向くもりし十余丈の銀の櫓と建たる方と見えくもりし昔貝
 別金彫塔舟の櫓子作くもりし猩くもりし跳の暖帝くもりし吳くもりし文字
 と櫓と其外瓊瑤の櫓子鼈甲の櫓と水晶の櫓と瑪瑙
 琥珀の張吳くもりし四くもりし葉くもりし所くもりし櫓子くもりし楽と
 奏と板ハ和社云清子見くもりし自由自在くもりし思くもりし
 久く誰咎くもりしものくもりしくもりし櫓子くもりし歌き



向^{むか}ふもしん^んれ^れが^がま^まの^の所^{ところ}へ^へ化^け有^りふ^ふ者^{もの}付^つく^く虚^{うつ}く^くさ
 多^{おほ}きは^は此^{こゝ}系^{けい}子^しへの^の柳^{やなぎ}菴^{あん}故^{こゝ}ら^ら多^{おほ}量^{りょう}の^の不^ふ思^し後^ごさ^さも^もあ^あき
 三^{さん}の^の川^{がは}大^{だい}神^{じん}と^とつ^つふ^ふと^と驚^{おどろ}か^かす^すも^もい^いづ^づか^かし^しと^と其^{その}
 方^{かた}八^{はち}宝^{ほう}へ^へあ^あま^まし^しや^や同^{どう}久^くを^をさ^され^れを^を私^{わたくし}も^も今^{いま}も^も不^ふ富^ふ
 嗚^なむ^む今^{いま}朝^{あさ}程^{ほど}岩^{いわ}田^{でん}屋^や九^く菈^らと^と中^{なか}の^の具^ぐを^をへ^へ拂^{はら}ひ^ひよ^よ
 多^{おほ}量^{りょう}と^と見^みせ^せよ^よ系^{けい}と^とな^なし^し宿^{やど}を^をゆ^ゆし^しと^とこ^こに^に
 可^かし^しと^とり^りと^とな^なせ^せし^しが^がその^{その}と^とら^ら宿^{やど}の^の枝^{えだ}を^を束^{むす}り^り柳^{やなぎ}の^の枝^{えだ}と^と教^{しよ}
 十^{じゆ}町^{ちやう}を^を又^{また}平^{ひら}地^ぢへ^へあ^あま^まし^し鳥^{とり}鶺^{せき}の^の階^{かゝ}子^こと^とや^やる^ると^とお^おほ^ほへ^へ
 ひ^ひま^まい^い所^{ところ}へ^へゆ^ゆし^しは^はく^くぐ^ぐ夜^よを^を怖^{おそ}ぶ^ぶの^の歌^{うた}と
 ち^ちり^りま^まの^の所^{ところ}へ^へ何^{なに}と^と中^{なか}所^{ところ}へ^へこ^こら^らの^の所^{ところ}へ^へ道^{みち}乃^の
 住^{すま}む^むの^の銀^{ぎん}河^がへ^へでも^もあ^あま^まし^しか^かの^の機^{はた}石^{いし}と^と六^{むつ}生^{せい}の^の物^{もの}
 と^とせ^せく^く得^えさい^{さい}の^のと^と宿^{やど}あ^あも^もし^しら^ら此^{こゝ}あ^あま^まお^お団^{だん}と
 心^{こゝろ}を^を地^ぢ獄^{ごく}あ^ある^る佛^{ほとけ}入^{いれ}江^え山^{さん}あ^ある^るい^い宋^{そう}刈^{かり}男^{おとこ}赤^{あか}菈^ら系^{けい}あ^あ
 赤^{あか}九^くと^とめ^めの^のと^と極^{ごく}系^{けい}の^のと^とそ^それ^れく^く肝^{かん}の^のす^すと^とあ^あの^のと
 赤^{あか}の^のと^とそ^それ^れか^かお^おま^ま事^{こと}此^{こゝ}見^みん^んい^いれ^れと^と懐^{なつか}し^しと^と見^み
 け^けぞ^ぞへ^へあ^あま^ま道^{みち}と^とく^く落^{おち}し^しと^とう^うし^しと^と無^むさ^さあ^ある^るい^い
 ぶ^ぶぞ^ぞと^とせ^せり^りの^の紫^{むらさ}繡^{しゆう}妙^{めう}の^の手^て把^はと^と色^{いろ}と^と糸^{いと}入^{いれ}と^とあ^ある^る
 ほ^ほと^とい^いく^く見^みく^くも^も有^ある^るの^の醫^い療^{りょう}を^を引^ひき^きま^まと^と軟^{なん}挺^{てい}と



はがした紙の裏綴入の紙は外へ眼鏡と賣地盤の
 ち付が有るのこころいふに福よふ所を揮く
 見てもふきふも寝るに痛むのちを落しおひ
 ぬきいりるうかぬがぬとまらぬ氣を居よしんをふ
 ると一にと思ひしむび一と玉樓を圍と見えしと
 母君もると貝桶と婿一と皆一牧の夢をくぬハハ程
 辛業と幣とゆかちをともくけん史記に所謂展ま
 構ふくくい養ハ辛氣幣あらん思百は法附の元中
 法病をまとも中へハ何系法附をもすふと
 存付松江袖鱗と巨く席と法覺子ハハハ森ゆと
 い六元綴治の将ふくくが法云の子胤とるは違ひ
 ハハハの書家とるはう又其比艾屋将海瑞徳の
 子胤とあちがむすか柄人夫といら一が今ハ過早と改者
 一々名人のこふんえははは是も百ハ又草挾師の将子
 誅優人の子胤の遠むたらが弓町土弓やハハハハハ
 誅優人ともを斧柄後と無とつたわ久くづ
 江戸へあうしと百とせしは症を狂言とさせく
 法覺子いしきふは一向子進とるはくせ危角子



玄号の娘君と嫌ひもひたし明尊東野うら
 のも思ひつても毎計たかく押迫めらけり
 せましく思召を危角渡りしるも移るも
 けがれ此附の元近と奥方と逢えり時言
 ひきしりもいづいづみんせざるも
 塙の垣子敷きざる隙けり踏
 まふくくと起さるる響の音しる女時
 ひんふくく人えり列あせしあ野ハ
 文のお禮らるる后に後も無くり
 くも妻あは返りせの程と甲斐も無く
 らく居るもしる移るあはるのせり今
 悔交れとせしる後か能田山に夜ハ
 ら晴ぬ恨の数くは樹野暮菲鈍情無
 めくも情あやしい世もあはる思入
 と廊く移るも憂名に人も苦し小便の
 余るあ夜と幸じやくと廊を並びに
 たちあたる無常の輝る土境の風園
 けりく吹迫し諸事も晴蛙も菜

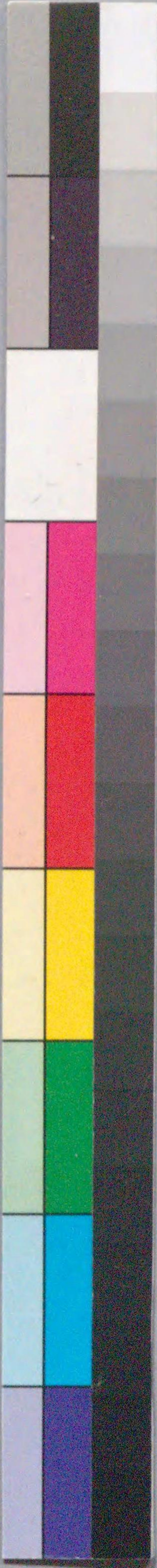


下水道子飛びふ増城の一期夕子死共才も朝子
 聞一申取るかもなくらけらる玉姓家とてうき
 軒才成借く借く息とばさきる小軒のけり増城の
 園のこちとくつ一のん火焼中怪の女落もる恋の種誰
 一のせま極物一廊のまも化子散朝六紅顔有く
 夕子も白無垢一重乳室く悪家素顔流時を
 一廊も見と顔の田面のまもと共伶子一はまきりあ
 る映くは條刈娘の素小袖子箭の糸と一握く手柄結
 の誓負もつ一の岐子迷ひくも娘とてさあ娘のこまも
 それ一やの迷果とをくえらるかれるまも一くまも一
 くともまよやアおあまも一はしきるの玉姓家く思ふ
 人とたよ化子世をまも一はしきるの玉姓家く思ふ
 いまも今も迷くおえらるそふどやひしとさあさあまも
 いの伊か一もを景護をまも一とや初のこちまも一の
 人情を惑せ一罪もく寢や今もまもの子終よけをなまも
 女郎もつひかまもまもまもまもまもまもまもまも
 一互の愛情もいも昔も曲唱も悪又名も
 一と社も思ひはひも好も方もひもまも



後山と見せしむるは人の徳を踏折牆花人皆可折
 かりふのはむかひんと語る未磨の万石の膏よのうら
 牙をむくくやのこころはあきらぬく傾城の徳は云
 季何人うそし息子初るをやういふおもしろい
 返くいふでまゝかへ塗松子遊る摺淡の交り夜衣
 誓い今全蘭の契りも息の強き吹矢のふくまゝ
 人々唯おまへの死おし思しやんをよと止し
 心の廊の証は世の記念いよの身ははぬる
 續後枝の切と原物語はよと不便と思ひ
 一層の回向とあまの云捨く汝の矢り東野ハ
 歩も多しむ無所は流佛く唱う柄廊
 逃者の者牽引の吉吉えより不度の負物守婆の
 季の文の総てえでよと稱梅六尺指と提ぎ令く四指
 一方二月と目と配るまゝはるをさく提提
 といふと見えし東野と日よほきマアハ
 見ほきしと喚ぶ東野ハ遊るも逃くはま女
 季の顔隠し人ほくを修るおもしろい息の下
 とき吉吟人遠く八鹿くま山鳥も白路もも尚時部





嬉子や富士の^根根^曲曲^見見^るる^形形^諸諸^のの^峰峰^カカ^とと^合合^せせ^たた^放放^言言^いい^しし^所所^もも^場場^手手^離離^くく^養養^をを^逃逃^しし^てて^やや^らら^どど^とと^いい^ふふ^勢勢^ひひ^亦亦^とと
慕ふ^くく^引引^三三^重重^のの^切切^場場^のの

子放の周^とと^患患^のの^周周^一一^寸寸^先先^をを^見見^ぬぬ^方方^便便

穆穆^文文^王王^猷猷^老老^父父^其其^所所^止止^のの^父父^とと^しし^てて^しし^てて^大大^意意^大大^悲悲^心心^のの^信信^祿祿^亦亦^子子^神神^泥泥^落落^やや^家家^うう^何何^のの^己己^のの^推推^すす^物物^とと^亦亦^放放^子子^思思^ふふ^事事^多多^をを^滋滋^ちち^をを^悻悻^返返^すす^町町^人人^にに^似似^合合^ささ^るる^夜夜^氣氣^とと^好好^むむ^事事^多多^くく^是是^見見^まま^しし^とと^止止^まま^しし^てて^一一^族族^中中^にに^おお^話話^のの^とと^是是^のの^事事^もも^初初^當當^{せん}せん^とと^思思^ふふ^事事^もも^頃頃^日日^にに^登登^秋秋^んん^とと^とと^ああ^らら^るる^勇勇

氣も折^れ傷^をを^そそ^ぞぞ^ぬぬ^くく^とと^かか^れれ^をを^今今^もも^其其^所所^にに^先先^昔昔^々々^とと^醫醫^療療^もも^とと^そそ^せせ^やや^志志^すす^ああ^くく^日日^外外^濟濟^業業^もも^入入^主主^のの^姫姫^君君^とと^見見^初初^とと^ああ^せせ^しし^とと^及及^ぬぬ^患患^のの^如如^のの^聊聊^をを^以以^てて^白白^檀檀^弓弓^檀檀^弓弓^柳柳^弓弓^歳歳^寄寄^くく^海海^をを^かか^んん^際際^ひひ^をを^大大^うう^とと^ああ^らら^せせ^しし^とと^佛佛^神神^とと^禱禱^をを^外外^他他^にに^おお^しし^とと^目目^比比^信信^んん^意意^ぬぬ^皇皇^新新^山山^のの^祝祝^言言^へへ^余余^指指^しし^此此^事事^をを^通通^夜夜^しし^るる^折折^ふふ^とと^禱禱^言言^のの^如如^くく^過過^夜夜^しし^てて^西西^人人^をを^跪跪^普普^門門^品品^とと^禱禱^言言^しし^てて^居居^るる^時時^うう^はは^りり^夜夜^半半^のの^比比^不不^思思^儀儀^やや^喜喜^慶慶

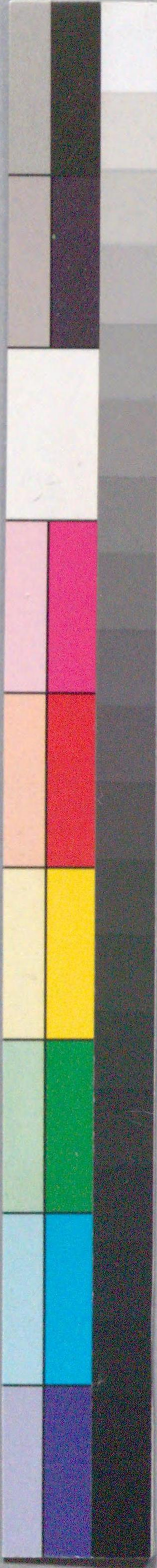
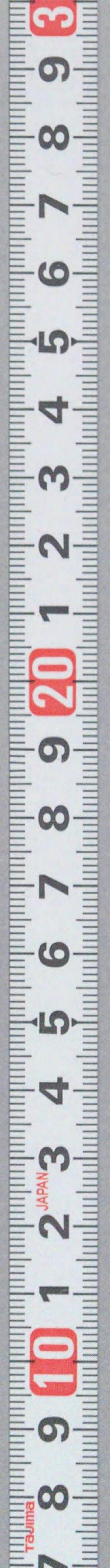
七二

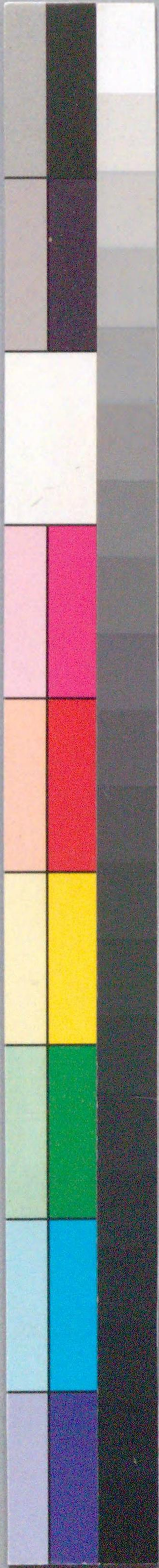


こと遠く出雲よく東野と海をが子嵐と縁と結び
 ねむ東野の海をが妻と定むべし。夜半に浦の玄号の娘と
 されそく入輿もく悲へし素女一人女子嵐の阿る遠ひ
 一放舟を浦の東野の川津海をが海をが浦と玄号の娘と
 見初しをそく入輿もく悲へし素女一人女子嵐の阿る遠ひ
 ことふらねと告むむく此厨子のしちへうへを徳の親も
 びし何定の方候と志とぬし退せしと見し一夢も
 日の朝も七子とありしを秘苑女難をが海をが浦と玄号の娘と
 紀を是と曰し捨ぬるもとてさるし。かき合妙智力の
 利益肝子めいど。二拜四拜しうぬ合く八拜し口ねえぞ
 悔りり。親書の清告も遠むその夜も多々屋の方より一つの
 鬼飛ひし。一夢も浦の寝所へりしと見えしが又つ乃
 魂いし。多々屋とさし飛ひけりしを。夢も浦の玄号の娘と
 ぬそむひりむ。一夢も氏藝子遠し。玄号の娘君と入輿有
 くと真方子とさあまへを返すも海をが浦の玄号の娘と入輿有
 けねを日外ら至公と曰及く中の町もく出る川とちかばは
 子来し。一東野の海。一くありし廓と欠落し親え
 をと長女子居りしとて。子速才文し。一く廓を正ぬせ妻し



208
82





国立国会図書館 指面草 208-82



ガラス使用

